NIE実践報告

1．タイトル：☆授業での新聞利活用視点の獲得とメディアリテラシーの理解に向けた実践

2．学校名

北海道教育大学教育学部札幌校(北海道)

3．実践者名（代表者名）

佐々木貴子、今　尚之

4．学年

第2、3、4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合学習実践論、選択科目　61人

6．単元（本時の学習課題）名

教具の活用を理解する

7．目標（狙い）

新聞の比べ読みによる、複数の情報を関係づける実践を通して、情報源への接し方や、メディアリテラシーについて理解させる。

8．評価の視点

(1)新聞各紙の特徴をとらえ、新聞が編集されていることを理解できたか。(2)新聞が提供する情報の量と質を認識することができたか。(3)子どもたちの探求活動での新聞利活用の視点を持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

発展編:教具の活用(新聞の特徴・新聞の利活用とメディアリテラシー理解(4時間))

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)メディアリテラシーの概念、基本原則の理解とNIEの実践事例の理解。課題として、同一日の6紙(全国紙4紙、地方紙1紙、経済紙1紙)の比べ読みを各自が行い、(2)以降に備える。(2時間)
(2)各自が実施した比べ読みの結果をグループ(4～6人)で討議し、結果をまとめる。(1時間)
(3)各グループの討議結果のまとめを報告し、相互評価を行う。(1時間)
(留意点)
　課題として、同一日の6紙(全国紙4紙、地方紙1紙、経済紙1紙)の比べ読みを、以下の視点によって行い、レポートを持参する。
　(1)トップ紙面(一面)の構成や取り上げている主題の比較、(2)社説が取り上げている主題、論調の比較、(3)文化・教育、家庭(生活)面の扱い(内容など)、(4)投書欄で取り上げられている投書の主題や内容、(5)各紙の広告の比較、(6)その他(たとえば、地方欄の記事の扱い方(いつ、何を)など)
　レポートを持ち寄り、グループ(4～6人編成)で比べ読みの結果を討議。討議結果をまとめる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

　新聞の比べ読みの経験がない学生がほとんどで、各紙の編集方針、論調、地方記事や広告の扱い方などを比較した結果に強い関心を持つ意見が多かった。

12．成果と課題

　新聞をじっくり読む習慣をもつ学生が少ないなか、今回の新聞の比べ読みは、新聞が提供する情報の種類、量、質を改めて認識させ、新聞各紙の特徴の異なり、違いを理解する機会となり、新聞への親しみや利活用への関心を持たせることができたものと考えられる。
　課題としては、4年生から2年生と学年を越えたグループ編成として討議をすることで、教育実習での経験などを踏まえた討議となることを期待したが、新聞の特徴や比べ読みの結果が討議の中心となり、授業での新聞利用について検討の時間が十分に取れなかったので、次年度以降の改善としたい。